



女性警備員の愛称が決定！

一般社団法人全国警備業協会

警備員の人材不足が大きな課題となっている中、女性警備員の活用を促すことを目的に一般社団法人全国警備業協会は女性警備員の愛称を「警備なでしこ」と制定した。日本の警備員総数は54万3,244人で、そのうち女性警備員は3万1,447人とわずか5.8%（警察庁「平成28年警備業の概況」）。同協会では女性を主要人材リソース（経営資源）として、働きやすい環境等の改善と女性警備員の活用を会員に促し、外部に向け女性警備員の認知度向上を強化していく。



特定建築物数が前年比1.0%増加

平成28年度衛生行政報告例

厚生労働省が発表した平成28年度の「衛生行政報告例」によると、建築物衛生法に基づく特定建築物の届出数（全国）は45,251件で前年度より1.0%増加した。用途別に見ると、「店舗」「事務所」「学校」「旅館」「その他」が増加し、「興行場」「百貨店」が減少した。登録業種（建築物清掃業、建築物空気環境測定業、建築物飲料水水質検査業、建築物飲料水貯水槽清掃業、建築物ねずみ・昆虫等防除業、建築物環境衛生総合管理業、建築物空調用ダクト清掃業、建築物排水管清掃業）の届け出営業所総数は、前年度比0.5%減の1万8,534件で3年連続の減少。

平成28年度の特定建築物数



体育館の水拭き・ワックス掛けに 文部科学省が“待った”

文部科学省が教育委員会などに通知

体育館の床板が剥離し、木片が身体に刺さる負傷事故が絶えないという消費者庁の調査結果を踏まえ、文部科学省は各都道府県の教育委員会や地方自治体の体育館担当部署に床板剥離による負傷事故を防止するよう通知し、水拭きやワックス掛けを禁止するよう求めた。洗浄や剥離の際に大量の水を使用することがフローリング等の不具合につながる可能性を指摘している。体育館の維持管理を外部に委託する場合は、適切な清掃の実施や、日常点検・定期点検の実施を仕様書で定めるほか、事業の受託者には公益財団法人日本体育施設協会や独立行政法人日本スポーツ振興センターの試験に合格した“体育施設管理資格者”がいることを条件に挙げた。これらを受け、日本フロアーポリッシュ工業会は体育館のメンテナンス業者に対し、日常清掃の留意点4項目とワックス掛けの留意点6項目を示し、適切な維持管理を実施するよう呼び掛けている。

